



学校便り 琢磨

令和4年度 第15号 R4.11.28 三豊市立詫間小学校

栄光を讃える！

本日、放送で表彰状の伝達を行いました。おめでとうございます。

◎2022年度 さぬきっ子陸上カーニバル

敬称略

4年男子 100m

第4位	4年	吉田 貫汰	15秒11
第7位	4年	片岡 洸太	15秒52

5年女子 100m

第6位	5年	橋本 怜	14秒97
-----	----	------	-------

5年男子 100m

第7位	5年	田坪 希星	14秒70
-----	----	-------	-------

5年男子 1,000m

第3位	5年	犬伏 玲煌	3分27秒31
第4位	5年	林 展一郎	3分28秒76

6年男子 1,000m

第5位	6年	大谷 優雅	3分23秒52
-----	----	-------	---------

4年男子 4×100m リレー

第1位	詫間小学校	横下 蓮、三崎 陽登、片岡 洸太、吉田 貫汰	62秒75
-----	-------	------------------------	-------

4年女子 4×100m リレー

第7位	詫間小学校	本條 莉梨、詫間 萌奈、鈴木 心桜、岸本 和花	68秒78
-----	-------	-------------------------	-------

5年男子 4×100m リレー

第3位	詫間小学校	亀井 娃秀、田坪 希星、山下 瑠己翔、實田 良仁	60秒76
-----	-------	--------------------------	-------

5年女子 4×100m リレー

第3位	詫間小学校	大西 那央、橋本 怜、西原 詩、田尾 美結	61秒16
-----	-------	-----------------------	-------

6年男子 4×100m リレー

第5位	詫間小学校	水口 銀二郎、渡辺 恵二、曾根 碧人、喜多 翔平	55秒81
-----	-------	--------------------------	-------

◎令和4年度 J A 共済全国小・中学生書道コンクール香川県予選 半紙の部

銀賞	4年	詫間 萌奈	佳作	2年	富山 杏
----	----	-------	----	----	------



新型コロナウイルス感染症防止対策について！

これから寒くなってきますが、感染防止のため、教室の換気を徹底します。暖房は、適切に使用していく予定ですが、座席の場所や体調等によって、授業中に寒さを感じる児童もいると思います。また、休み時間には、窓を開けて換気を行いますので、室内といえども、かなり気温が下がってしまいます。12月に入ると急に気温が下がるという予報も出されているところです。

そこで、昨年度と同様に12月1日(木)から、授業中等の室内での防寒着(長ズボンも含む)の着用を認め、児童にも周知いたします。なお、手袋は、室内では着用しません。ネックウォーマーも、登下校時のみ着用可です。また、防寒着は、着用しない時は必ずロッカーにしまうということも児童に伝えていきます。

ただし、標準服の上着を着ずに、防寒具だけを着用するのは、換気による室内での寒さ防止対策のための防寒着の着用の措置の意図とは異なりますので、やめるように指導します。

室内での防寒着の着用は、3月中旬(卒業式頃)を終了時期と考えておりますが、終了時期につきましては、気温等を見て、改めて学校便り等でお知らせします。

算数の問題と現実

算数の時間の文章問題を解く時に、私は、すんなりと式を立てて計算することができない子どもでした。例えば、「クッキーが13個あります。4人で同じ数ずつ分けたら、1人何個になり、何個あまりますか。」という問題があったとします。詫間小学校の子どもたちなら、 $13 \div 4 = 3$ あまり1と、式を立てて計算し、答えは1人3個で、1個あまるとすんなり計算できることでしょう。しかし、子どもの頃の私は、「あまったクッキーは、どうなるのだろう？」ということが気になって気になって仕方ありませんでした。「そもそも、クッキーがあまることなんてあり得ない。早い者勝ちか、じゃんけんで決めるだろう！」と、現実の世界を思い出して、なかなか式が立てられませんでした。そんな思いを先生に話すと、「これは算数なのだから、あまっていいの。」と言われ、「そうか、算数の世界は、実際の世界とは違うのだ。」と思い、ようやく式を書いて計算を始めるといったことがありました。自分の頭の中では、13という数字ではなく、「おいしそうなクッキーが13個目の前に並んでいた」のです。それを算数セットのブロックのように「□が13個」とは、なかなか考えることができなかつたのです。

ところが、高学年になって、同じような問題が出たことがありました。「クッキーが13個あります。4人で同じ数ずつ分けたら、1人何個になりますか。」という問題を、分数で解く授業でした。 $13 \div 4 = 13/4 = 3$ と $1/4$ 。つまり1人まるまる3個と、1個の4分の1ということになります。この問題を見た時に、私は、算数はすごいと思いました。まさに算数の世界も実際の世界も同じだ、しかも、公平だと感じたのです。早い者勝ちかじゃんけんでは、1人だけいい思いをしますが、残りの3人はくやしい気持ちになります。ところが、残った1個を4つに割って1つずつ取れば、全員が公平にクッキーを食べることができます。「算数とは、公平に考えることができるお勉強なのだ！」と思いました。

また、こんなこともありました。7と5を使って、引き算の問題を作った時のことです。詫間小学校の子どもたちなら「まんじゅうが7個あります。5個食べたら残りは何個になりますか。」という問題や、「さとしさんは、鉛筆を7本買いました。よしえさんは、鉛筆を5本買いました。どちらが何本多く鉛筆を買いましたか？」のような問題をすんなりと作ることでしょね。私は、けっこうな時間考えたすえ、「ぼくは、カードを5枚持っています。ひろき君が、7枚カードをほしいとたのんできたので、ぼくはカードをひろき君にあげました。ぼくは、今、何枚カードを持っていますか。」という問題を作りました。この問題、解けませんよね。そうです。その時も、友だちや先生から、「 $7 - 5$ はできるが、 $5 - 7$ はできません。」とか、「カードを5枚しか持ってないのに7枚あげることはできません。」とか、「何枚ひろき君にあげたのか分からないので解くことができません。」とかと集中攻撃されました。でも、これ、その問題を作る前の日に本当にあった話なのです。ひろき君（現在高等学校の校長先生）の家で遊んでいたら、仮面ライダーか何かのカードの話になって、「ひろき君は何のカードがほしいの？」「○と△と□の3枚はぜったいにほしいなあ。できたら、◇と●と▲と◆の4枚もほしいな。7枚、今ほしいかな。よしき君は、今、何枚カード持ってる？」「ぼくは今5枚持ってるよ。◇と●と▲と◆と○。」「へえ、いいなあ。」「じゃあ、この5枚、全部ひろき君にあげるよ。」「えーっ、いいよ。それはわるいよ。」「いいよ。この前、ひろき君、銀玉鉄砲をぼくにくれたでしょ。そのお礼だよ。」「ほんと？いいの。ありがとう。」ということですから、現実を式に表したら $5 - 5 = 0$ ということになります。でも、実際にあったことは $5 - 7$ （5枚しか持っていないのに7枚ほしいと言われた）で、 $5 - 7$ はできないので $5 - 5 = 0$ になってしまったということです。

しかし、中学校の数学では、この現実も $5 - 7 = -2$ （マイナス2）と、見事に式に表すことができたのです。まさに、「5枚しか持っていないのに7枚ほしいと言われた」ということを式に表すことができたのです。算数・数学ってすごいなあ！と心から思いました。しかし、このような私の頭の構造ですので、「国語が得意で算数は苦手」な中高校生に成長していきました。